

琉球大学学術リポジトリ

西原町民文化講座 ～琉球大学、沖縄キリスト教学
院大学・沖縄キリスト教短期大学共催事業～

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学生涯学習教育研究センター 公開日: 2009-06-03 キーワード (Ja): 生涯学習, 大学との連携 キーワード (En): 作成者: 金城, 裕子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/10430

西原町民文化講座

～琉球大学、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学共催事業～

The Cultural Course of Nishihara Town: A Case of Co-hosting by Nishihara Town, the University of the Ryukyus, Okinawa Christian University, and Okinawa Christian Junior College.

金城裕子*

キーワード：生涯学習、大学との連携

1 基礎データ

事業名：西原町民文化講座

実施場所（自治体名）：西原町立図書館（西原町）

人口（人）：34,662人（うち外国人 414人）

※平成20年4月1日現在の住民基本台帳人口及び外国人登録原票登録者数

面積(km²)：15.84km²

※平成19年10月1日現在「全国都道府県市区町村別面積調」国土地理院公表

事業主体：西原町教育委員会（主管：西原町立図書館）

連携先大学等

学校名：国立大学法人 琉球大学

（所在地：西原町字千原1番地）

学校名：学校法人 沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学

（所在地：西原町字翁長777番地）

事業実施年度：平成18年度

予算額(千円)：平成20年度予算額

西原町

0円

事業に関する説明（キャッチフレーズ）：町内の大学との共催事業として文化教養講座を開講。

*西原町立図書館 職員

2 事業実施の背景・目的

(文教のまちの具現化)

西原町は、第三次総合計画（期間：平成14年度～平成23年度）において、「文教のまち西原」を将来像として掲げ、町民と一緒に“人かがやき 自然ゆたか 文化かおる 平和創造のまち”づくりに取り組んでおり、町民の旺盛な学習意欲（図書の貸出冊数が平成19年度中1人当たり7.8冊で県内トップ）や大学立地などの特性を踏まえ、学習環境の創出が求められている。

そこで、平成16年8月20日に西原町立図書館が開館されたことに伴い、平成18年度から「文教のまち西原」にふさわしいまちづくりの一環として、町内にある国立大学法人の琉球大学と私立の沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学の2つの大学と連携し、町民の文化教養の向上と生涯学習の振興を図ることを目的に開催している。

3 事業概要

(旺盛な学習意欲に対応)

町内の大学から講師を無料で派遣していただき、各講師の専門分野を町民向けに分かりやすい内容で講義していただいている。また、講座は年間を前期及び後期の二つに分け、それぞれの期で全5回の講座（年間10回講座）となっており、1月に1回の開催である。平成20年度の場合は、6月から10月までを前期、11月から3月までを後期とし、毎月第二木曜日の午後6時30分から午後8時30分までの約2時間を基本に開講している。

4 行政と大学等との業務分担

1. 共催事業における業務分担

(1) 西原町教育委員会（西原町立図書館）

- ・会場の提供および講座の運営
- ・町内外への広報活動
- ・受講者へのアンケート調査および結果報告

(2) 国立学校法人琉球大学、学校法人沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学

- ・講師の選任および派遣。

2. 講座内容等

講座内容は、三者協議のうえ決定し、講座は町民向けにわかりやすい内容とする。

なお、前期・後期とも、それぞれ琉球大学が3回、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学が2回担当する。

3. その他に関する事項については、三者協議会で決定する。

5 事業の成果・今後予測される効果

(文化教養の向上と生涯学習の振興)

町民が大学教授等の講座を受講する機会を得ることで、文化教養の向上と生涯学習の振興を図ることができる。また、参加者には40歳～60歳の向上心旺盛な方々が多いことから、今後の地域おこしの核になる人材を育成し、「文教のまち西原」の将来像を展望する機会になると考える。西原町では、各種審議会・委員会委員の公募制を導入しているが、こうした方々が委員になっていくことで、町民の建設的な意見が町政に反映されていくことを期待する。

ちなみに、平成20年度前期の第5回終了後にアンケート調査を行ったところ、「各大学の専門分野の先生方から、直にお話が聞けてよかった」「質問時間が割りとあり、それにより講座の内容への理解が深まった」「講師の先生方の広い視野に触れることができ、毎回単行本を1冊ずつ読破したよう

な感銘を受けた」などの回答があった。

6 今後の課題と展開

(広報活動の強化と参画型への転換)

町民への周知媒体については、現在、町広報誌「広報にしはら」と公共施設やスーパー等へのポスターの掲示で周知を図っているが、ときどき講座終了後に「知らなかった」という声が寄せられるので、広報活動をもっと強化し、受講者の拡大を図っていきたい。

また、タイムリーな話題を瞬時に取り入れた講座内容の検討や、テーマを連続して設定することで、さらに内容の掘り下げを図るなど、今後は、「参加型」から「参画型」・「討議型」への転換が求められていると思われる。

[参考資料] 平成18～20年度の実績

1. 平成18年度 西原町民文化講座

○開講期間 前期：2006年6月8日(木)～2006年10月12日(木)
後期：2006年11月9日(木)～2007年3月8日(木)
(前期・後期とも各5回)

○受講者人数 292人
(内訳)

前 期

開講日	6月8日	7月13日	8月10日	9月14日	10月12日	合計
受講者数	42人	26人	27人	20人	18人	133人

後 期

開講日	11月9日	12月14日	1月11日	2月8日	3月8日	合計
受講者数	40人	32人	33人	28人	26人	159人

○修了者人数 39人
(内訳) 前期：19人 後期：20人

○講座日程・プログラム

前 期

回	月日	講師氏名	演 題
第1回	6月8日	琉球大学農学部長・教授 宜保清一	快適な農村地域の整備をめざして
第2回	7月13日	沖縄キリスト教短期大学英語科講師 柳田正豪	三つの文化を経験して(台湾・日本・アメリカ)
第3回	8月10日	琉球大学法文学部教授 赤嶺政信	沖縄民俗文化
第4回	9月14日	沖縄キリスト教短期大学保育科助教授 大山伸子	宮良長包メロディを楽しむ
第5回	10月12日	琉球大学医学部教授 安仁屋洋子	沖縄産の野菜・薬草

後 期

回	月 日	講 師 氏 名	演 題
第 1 回	11月 9 日	琉球大学教育学部教授 上江洲 榮 子	美容と健康の栄養学
第 2 回	12月14日	沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科教授 高崎 正 名	なが〜く愛して 入門 株式投資
第 3 回	1 月11日	琉球大学教育学部教授 前原 武 子	子どもの意欲を高めるための 子育て
第 4 回	2 月 8 日	沖縄キリスト教短期大学保育科教授 山城 真紀子	子育ての知恵は、「抱きしめ」 と「こちょこちょ」から
第 5 回	3 月 8 日	琉球大学法文学部教授 狩俣 繁 久	いま、なぜシマクトウバを 学ぶのか

2. 平成19年度 西原町民文化講座

○開講期間 前期：2007年 6 月14日（木）～2007年10月11日（木）

後期：2007年11月 8 日（木）～2008年 3 月13日（木）

（前期・後期とも各 5 回）

○申込人数 前期：63人 後期：41人

○受講者のべ人数 259人

（内訳）

前 期

開 講 日	6 月14日	7 月12日	8 月 9 日	9 月13日	10月11日	合 計
受 講 者 数	37人	31人	26人	22人	21人	137人

後 期

開 講 日	11月 8 日	12月13日	1 月10日	2 月14日	3 月13日	合 計
受 講 者 数	31人	25人	29人	16人	21人	122人

○修了者人数 33人（内全出席 19人）

（内訳） 前 期：17人（内全出席 10人） 後 期：16人（内全出席 9人）

○講座日程・プログラム

前 期

回	月 日	講 師 氏 名	演 題
第 1 回	6 月14日	琉球大学工学部教授 堤 純一郎	環境を通して見る文化と技 術
第 2 回	7 月12日	沖縄キリスト教短期大学英語科講師 柳田 正 豪	カウンセリングにチャレ ンジ
第 3 回	8 月 9 日	琉球大学法文学部教授 平 敷 徹 男	日常生活をマーケティング 的発想で見直してみよう

第4回	9月13日	沖縄キリスト教短期大学非常勤講師 山 里 米 子	楽しい英語で始めよう国際理解
第5回	10月11日	琉球大学法文学部教授 伊 波 美智子	暮らしと環境問題

後 期

回	月 日	講 師 氏 名	演 題
第1回	11月8日	琉球大学生涯学習教育研究センター教授 背 戸 博 史	かつて日本人は、子どもをどのように捉えていたのか？ －子どもを見つめる大人の心得－
第2回	12月13日	沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科准教授 本 浜 秀 彦	沖縄の近代文学を読む
第3回	1月10日	琉球大学生涯学習教育研究センター講師 後 藤 武 俊	学校は変わるのか？ －アメリカの理想と日本の現実－
第4回	2月14日	沖縄キリスト教短期大学保育科准教授 喜 舎 場 勤 子	地域の教育力
第5回	3月13日	琉球大学生涯学習教育研究センター長 法文学部教授 牛 窪 潔	楽しいコーチング講座 －新しい気付きと発見を求めて－

3. 平成20年度 西原町民文化講座

○開講期間 前期：2008年6月12日（木）～2008年10月9日（木）
(前期5回)

○申込人数 前期：59人 後期：55人

○受講者のべ人数 228人

(内訳)

前 期

開 講 日	6月12日	7月10日	8月14日	9月11日	10月9日	合 計
受 講 者 数	45人	35人	26人	30人	35人	171人

後 期

開 講 日	11月13日	12月11日	1月22日	2月12日	3月12日	合 計
受 講 者 数	35人	22人	28人	23人	20人	128人

○修了者人数 33人 (内全出席 14人)

(内訳) 前 期：18人 (内全出席 9人) 後 期：15人 (内全出席 5人)

○講座日程・プログラム

前期

回	月日	講師氏名	演題
第1回	6月12日	琉球大学観光産業科学部産業経営学科准教授 知念 肇	「商いの真心と魅力について“この商品、日本製それとも外国製？”」
第2回	7月10日	沖縄キリスト教短期大学総合教育系准教授 張本 文昭	「健康づくりと運動のはなし」
第3回	8月14日	琉球大学法文学部経済学専攻課程准教授 藤田 陽子	「自然環境を守る意味」
第4回	9月11日	沖縄キリスト教学院大学 英語コミュニケーション学科准教授 浜川 仁	「イギリス・ロマン派とトーマス・ド・クインシー」
第5回	10月9日	琉球大学観光産業科学部産業経営学科講師 宮國 薫子	「沖縄の文化と健康と観光について」

後期

回	月日	講師氏名	演題
第1回	11月13日	琉球大学理学部教授 伊澤 雅子	「琉球列島の希少動物」
第2回	12月11日	沖縄キリスト教短期大学保育科講師 照屋 建太	「子どもの自然環境をどのように考えるか」
第3回	1月22日	沖縄キリスト教学院大学人文学部講師 新垣 友子	「言語学入門 -ことばの仕組み-」
第4回	2月12日	琉球大学農学部助教 仲村 一郎	「沖縄における稲作について」
第5回	3月12日	琉球大学名誉教授 赤嶺 健治	「日系アメリカ人の体験から学ぶもの～ジョン・オカダの『ノー・ノー・ボーイ』を中心に～」

4. 受講者の声

○講座の内容について

- ・各先生の講義が素晴らしく、今後の人生において大いに参考になった。非常に良かった。
- ・学生に戻った気分で、いろいろな方面の勉強が出来ました。
- ・たくさんの知識や情報を得ることができた。
- ・ほんとうの勉強になる講座になっている。もっと時間数を増やしても良いと思う。
- ・普段、なかなか勉強することのないテーマについて、分かりやすく、興味深い内容である。
- ・講演内容（テーマ）のレパートリーの多さが良いと思う。
- ・マーケティングや教育、環境教育等、バラエティーに富んでたいへんよかった。
- ・自分の中での意識が変化してきた。生活の質を高めるために講座は、とても良かった。
- ・内容に面白みがあった。

- ・講座内容は、充実した意義あるもので、知識が身につくについて気に入りました。
- ・各分野の先生から分かりやすいお話がきける。
- ・大学の先生方から専門分野のお話をきける。
- ・環境問題やマーケティングなど、多岐にわたり知識を得ることができて良かった。
- ・いろいろなテーマで学ぶことができた。
- ・幅広い範囲での学習ができた。感謝している。
- ・どんなテーマも目新しく、勉強になる。
- ・どんなテーマでも研究に裏打ちされた話を聞くことはたいへん勉強になる。
- ・テーマが多彩。
- ・地域住民のニーズに応じている。
- ・興味を持った講座は、もう一度受講したい。

○今後のテーマ等について

- ・今後のテーマは、歴史、文化、民俗、自然、産業、環境、法律、建築、心理学、エコについて。
- ・現実に即した政治経済を中心に、日常生活に直結した問題などをわかりやすく講義してほしい。
- ・方言の講座。方言にまつわる面白い話をもっと聞きたい。また、そのなかで、もっと方言を覚えていきたい。
- ・老後の過ごし方、病気との付き合い方
- ・時事、国際問題、経済情勢等も取り入れて実施したらなお良いと思う
- ・災害について
- ・医薬品関係の取扱いと関わりあい方について
- ・インターネット（パソコン、携帯）の関わり方について
- ・国外者との関わり方について
- ・より全員に関係する講座にしてほしい。
- ・生活に密着したテーマ
- ・地域の教育力
- ・家庭力や地域の教育力を高めるには？
- ・子育て・孫育てについて
- ・子どもと環境
- ・スポーツと医学
- ・農村社会、沖縄、西原における農業の将来
- ・食文化について
- ・沖縄の伝統文化について
- ・統計学について
- ・年金について
- ・土日を避けた曜日に設定し、働く人が参加しやすくなる時間帯に持ってきてくれたことに感謝している。
- ・若い女性の受講者を増やしてほしい。
- ・回数を増やした方が良いと思います。
- ・農学系、健康に関するもの
- ・裁判員制度
- ・沖縄、日本、世界の宗教について
- ・人体のしくみ

- ・環境税、排出権取引について
- ・これまでは、那覇市中心の講座に参加していたが、西原町地域で参加でき、ありがたく思う。
- ・沖縄の歴史に関する講座を体系的に開催してみてもどうか。
- ・琉球の歴史について（首里王朝時代から廃藩置県に至るまでの歴史）
- ・毎週開催してほしい。
- ・たいへん魅力ある講師陣のお話をきくことで、多くの知識や感性を養うことができた。
- ・読み聞かせの大切さなどがわかるような講座
- ・多種多彩なテーマを希望する。
- ・食育、ヨガ、環境、虐待、カラーセラピー、エコライフ、町の民話、言伝え、建造物、伝統行事について知りたい。
- ・薬草、西原町の歴史
- ・比嘉春潮先生の文献内容を中心とした講座
- ・年間を通して、今の様な講座を持ってほしい。
- ・前期・後期に分離せず、1年間を通しプログラムを事前に示してほしい。
- ・社会人、地域に生活しているながら、大学の講義を受け、学ぶ機会を与えられていることは、恵まれていると思います。
- ・同じ講師の方に連続講座をしてほしい。